

2019年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 11月に「道北地域の景気は、基調としては緩やかに持ち直しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は緩和を続けている」と判断をやや引き上げた後、1月までその判断を続けていましたが、今月は、当地における「下押し圧力」の内容であった観光面の風評被害がほぼ終息したと思われるため、「地震の影響による下押し圧力」にかかる記述を削除しました。すなわち、判断を幾分引き上げ、「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」とし、地震前の表現に戻すこととしました。
- 公共投資は災害復旧工事の一巡から減少しているほか、住宅投資も減少しています。個人消費もやや弱めの動きとなっています。一方、観光は持ち直しの動きを続けています。
- 雇用面では、労働需給がタイトな状況が続いています。この間、金融機関の貸出は前年をやや下回りました。

■個人消費の動向

- 1月の大型店売上高は、前年を下回りました。今年の土日祝日の休日数は、前年と同数でしたが、1月の気温は、平年よりやや高め（旭川市の平均気温で平年比+0.7度）で、引き続き季節商品の売り上げ等に影響した可能性があります。1mm以上の降水日数も平年より多く（旭川市で平年比+3.4日）、ショッピングの外出意欲に水が差された面もあるかもしれません。
- 1月の新車登録台数は、軽自動車も、除く軽でも、前年を下回りました。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、1月も前月

に続き、すべての空港で前年を上回り、全体で3か月連続の前年比プラスとなりました。もっとも、旭川空港では、国内線が前年を上回ったものの、国際線はチャーター便による旅客数が多かった前年を下回りました。

- ホテル・旅館宿泊客数は、1月、施設の耐震工事に伴い客室減少が生じた先の影響も続いており、前年を下回りました。この間、旭川市内では、「北海道ふっこう割」の効果にも支えられて、市内全体のホテル客室稼働率は前年を上回りました。
- 各地観光施設の入込みは、1月、層雲峡地区および利尻・礼文フェリーで前年を下回りましたが、入園者のウェイトの大きい旭山動物園（速報値）が3か月連続となる前年比2桁増となったことに加え、網走監獄、ウトロ温泉も前年を上回ったことから、全体でも前年を2か月連続で上回りました。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、1月、オホーツク地区が4か月連続で前年を上回ったものの、上川、宗谷地区が大きく前年を下回り、全体でも2か月連続で前年を大幅に下回りました。18/4～19/1月の累計では、宗谷は前年を上回りましたが、上川、オホーツクは前年を下回り、全体でも2桁の前年割れが続いています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、12月、持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が3か月連続で前年を下回り、全体でも2か月連続で前年を下回りました（全国ベースでも貸家は4か月連続の前年比減少となっています）。持家、分譲、貸家合計の10～12月期も、2期連続となる前年比減少です。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、12月、宗谷、オホーツク地区が前年を

下回ったものの、ウェイトの大きい上川地区で前年を8割強も上回り、3総合振興局合計で、11月に続き前年比2桁の増加となりました。旭川市においては、前年比2倍を超える増加です。このため、四半期ベースでみると、3総合振興局における10～12月期は、17年7～9月期以来5期振りの前年比プラスに上昇しました。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。12月の有効求人倍率は、北見、網走で高水準であった前年を下回りましたが、旭川、稚内で前年を上回っています。一方、12月の新規求人数は、前年同月が前年比2桁増加と大きく伸びた旭川、稚内、網走で前年を下回ったほか、北見でも前年を下回りました。全国でも18/12月は前年を下回りましたが、1割近い前年比増加となった17/12月の裏が出ている様子です。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、1月、57か月振りに前年をやや下回りました。

■今後のポイント

- 道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①観光が、ふっこう割の制度終了後も集客を伸ばせるかどうか、また、②予想される国土強靱化関連や災害復旧工事等の公共工事の発注についても、人手不足感が強い中、建設業者の受注動向に留意したいと思います。このほか、不透明感を増す世界経済の中で、③来年度の設備投資意欲や、④消費マインドへの影響についても、注目していきたいと思います。

以 上